

学級担任のまなざし 42

Okayama Prefectural Education Center

R2.8.6[Thu]

「助ける」

低学年の体育の授業を参観していたときの事です。

こおり鬼をしていました。まず、鬼を4人決め、鬼にタッチされると馬跳びの馬の状態でおおってしまいますが、タッチされていない友達に跳び越えてもらおうと復活できるという鬼ごっこです。準備運動の後、3分間、この単純な鬼ごっこを子どもたちは楽しそうにやっていました。

その間担任は、子どもたちの様子をじっと見えています。いろいろな子どもがいます。タッチされないように、体育館の隅っこにじっとしている子どもがいます。鬼の4人を目で追いながら息を潜めているみたいです。また、ずっと「キャー！」と叫びながら逃げ回っている子どももいます。大声で叫んでいるので、すぐに鬼に見つかりタッチされますが、大声で「助けてー！」と叫ぶので、すぐに助けてもらっています。他に、自分がタッチされることを顧みず、ひたすらおおっている友達を助けようとしている子どももいます。跳び越えようとするスピードが落ちるので鬼にタッチされますが、復活後も果敢に助けようとしています。

1回戦が終わり、担任の周りに子どもたちが集まり、担任は尋ねます。「最後に残っていた人？」大勢が手を挙げ、みんなで拍手をします。「一度もおおらなかった人？」数人が手を挙げ、拍手をします。更に尋ねます。「友達を何人助けて復活させましたか？1人の人？2人の人？…」最高は5人を助けた子どもでした。大きな拍手が起こりました。

たかが鬼ごっこですが、夢中になって仲間を助けようと走り回っていた姿が印象的でした。そして、その姿を取り上げ、しっかりほめた担任もすばらしい学級経営をしていると感じました。